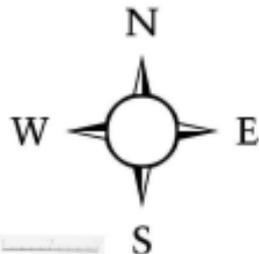


中野地区史跡散歩マップ



①玄松院開山の跡

当館
②明教堂跡

④地頭所跡

③安井息軒旧宅
琉球豆腐

⑤湯地家長屋門

⑦蓮徳寺基礎跡

⑥平藤清南
生家跡

⑧中学校建設記念碑

大橋

清武市街が
見渡せます

⑨中野神社

⑩安美寺跡

⑪現代安井家墓地

⑫伊賀家係墓
〔文水寺跡〕

⑬河地殿河守墓

⑭河地氏為氏墓

本社の運動公園まで
見渡せるビューポイント



中野中学校南大橋内に入られる際は、
事前まで許可を受けてください。
(土曜午後、日曜、祝・休日の入橋
はご遠慮ください。)



①玄松院開山の碑(市指定史跡)

『日向地誌』によると、この地には玄松院という寺院があり、天保年間(1830～43)までは虚空蔵堂が建っていたようです。現在十数基の古石塔が残り、そのうちのひとつが開山の碑とされています。塔身には「前永平当院開山慈峯大和尚 慶長六年辛丑七月七日」と刻まれており、慶長6年(1601)の建立だと分かります。



②明教堂跡

文政10年(1827)に清武郷の学問所として落成しました。初代教授は、安井息軒の父滄洲が任命されました。「明教堂」という名前は、息軒によって命名されました。現在、その跡地は民家になっていますが、きよたけ歴史館に、棟札が展示されています。



③安井息軒旧宅(国指定史跡)

安井息軒の生家で、天保2年(1831)藩校振徳堂の総裁に滄洲、助教に息軒が任命されて飢肥城下に転居するまで、安井家の住居でした。安井家転居ののちに隣家の所有となり、大正10年(1921)に移築されましたが、同12年に公有化され、昭和54年(1979)に国指定史跡となりました。平成5年(1993)に史跡整備が行われています。



④地頭所跡

江戸時代、日向国南部沿岸部にあった飢肥藩は、現在の宮崎市赤江・木花・青島地区、清武・田野両町を、清武郷として統治していました。この清武郷支配のための役所が地頭所で、ここ中野の地に置かれ、その周辺には武士たちが集住していました。現在、地頭所の跡地は空き地になっています。



⑤平部嶠南生家跡

平部嶠南(良介、1815～1890)は、清武郷中野の和田家に生まれました。13歳から明教堂で安井息軒に学び、19歳で飢肥の平部家の養子となりました。24歳で藩校振徳堂の教授となり、要職を歴任したのち家老となりました。『日向算記』、『日向地誌』の著者としても知られます。



⑥湯地家長屋門

湯地家は飢肥藩士で、知行高100石の清武郷では最も身分の高い家でした。この門は湯地家の屋敷門で、使用人の住居や馬小屋が一体化しています。本来屋根は茅葺きでしたが、西南戦争で焼けてからは瓦葺きとなりました。



⑦蓮徳寺墓碑群(市指定史跡)

蓮徳寺は、日蓮宗富士門流の寺院でした。廃仏毀釈のため廃寺となり、現在は石塔のみが残っています。応仁元年(1467)に建立された3基の五輪塔があり、日蓮上人や、富士門流の基礎を築いた日目上人、日郷上人の名があります。



⑧小学校建設記念碑

現在の宮崎学園短大キャンパスには、明治8年(1875)に明教堂の建物を移築して開校した清武小学校が、昭和31年(1956)までありました。この記念碑は、明治30・31年に清武・黒坂・大久保の三小学校が新築されたことを記念して、大正4年(1915)に建てられたものです。



⑨中野神社

当社は、天長元年(824)創建と伝えられる八幡社です。祭神は八幡三神と、文明17年(1485)に中野で亡くなった伊東祐堯です。清武新町から宮崎学園短大に登る坂を「八幡坂」とよぶのは、この神社に由来します。



⑩歴代安井家墓地(市指定史跡)

兵学指南として清武郷中野に代々居住した安井家の墓地です。中野に居住するようになった朝宣から恭一まで9代の墓があります。なお、息軒の母(楚也)の墓はここにありますが、父滄洲の墓は飢肥安国寺墓地に、息軒の墓は東京文京区の養源寺にあります。



⑪伊東家僑墓(市指定史跡)

この場所には、廃仏毀釈によって廃寺となるまで、文永寺という寺院がありました。その墓地に、飢肥藩初代伊東祐兵から12代祐丕までの歴代藩主の僑墓があります。清武郷の藩士たちが、盆・彼岸・正月に藩主の墓参りをしていました。



⑫河崎駿河守墓(市指定史跡)

伊東家僑墓と同じく文永寺跡の墓地にある板碑。伊東義祐・祐兵・祐慶の三代に仕え、清武地頭をつとめた、河崎駿河守祐長の墓碑です。「大翁宗徳居士/河崎駿河入道/元和元乙卯十二月廿日」と刻まれており、元和元年(1615)没だと分かれます。



⑬河崎祐為供養塔

伊東家僑墓と同じく文永寺跡の墓地にある六地藏塔。現在摩滅していますが、「文禄四 林鐘十四鳥 河崎口介祐為」と刻まれおり、文禄2年(1593)6月、朝鮮出陣中に没した河崎権介祐為の三回忌に建てられた供養塔とみられます。



⑭安楽寺跡

現在この地は地元の人から「安楽土」と呼ばれ、かつて安楽寺があった場所と伝えられています。現在は、江戸時代の板碑(写真下)があるほか、文化2年(1805)7月に亡くなった、清武地頭長倉祐有の娘の墓(写真右)なども残っています。

